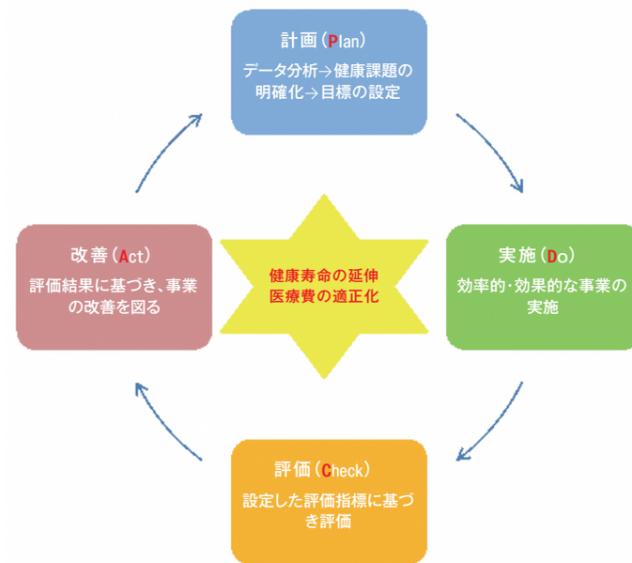


目 標

重点事業	現状（令和4年度実績）	目標（令和11年度末）	
		アウトプット（実施内容）	アウトカム（事業の成果）
特定健康診査	受診率 31.4%	受診率 60%	受診者の健康維持
特定保健指導	終了者割合 5.7%	終了者割合 60%	終了者の健康改善
生活習慣病重症化予防事業（糖尿病）	プログラム終了者延べ 177 人	プログラム終了者 205 人	プログラム終了者の透析移行 0 人

評 価

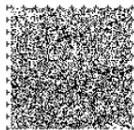
令和8年度末に中間評価を行い、最終年度となる令和11年度に本計画に掲げた目標の達成状況を評価し、PDCAサイクルに沿って、計画を見直していきます。



【図】保健事業のPDCAサイクル

被保険者一人ひとりが、自分自身の健康に目を向け、健康状態を把握し、生活習慣を振り返り、自主的に健康増進及び疾病対策や予防に取り組むことで、生涯にわたり生活の質を維持・向上できるよう、保健事業を推進します。

発行 三郷市 令和6年3月
 編集 いきいき健康部国保年金課・健康推進課
 住所 〒341-8501 埼玉県三郷市花和田 648-1
 ☎ 048-953-1111（代表）
 URL <http://www.city.misato.lg.jp>



第3期 三郷市国民健康保険保健事業実施計画 (データヘルス計画)・第4期三郷市特定健康診査等実施計画



三郷市キャラクター かいちゃん&つぶちゃん

令和6年度～令和11年度



計画の主旨

【データヘルス計画】

「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)において、「すべての健保組合に対し、レセプト等のデータ分析に基づくデータヘルス計画の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する」とされ、保険者はレセプト等を活用し、PDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業を推進することとなりました。

【特定健康診査等実施計画】

平成20年4月から、「高齢者の医療の確保に関する法律」が施行され、40歳から74歳の加入者に対し、生活習慣病の起因となるメタボリック・シンドロームに着目した「特定健康診査・特定保健指導」を実施し、生活習慣病の発病、重症化を抑制し、将来的な医療費の適正化を図ることを目指し、特定健康診査等実施計画を策定し実施してきました。

本計画は「三郷市国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）」と「三郷市特定健康診査等実施計画」を一体化し、今後6か年で取り組むべき施策を盛り込みました。

目 的

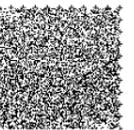
本計画は、KDB（国保データベース）システムのデータを活用し、医療費の増大につながる課題を明確にした上で、PDCAサイクルに沿った効果的・効率的な保健事業を実施するものです。

また、特定健康診査・特定保健指導を効果的に実施し、生活習慣病の発病、重症化を抑制し、健康寿命の延伸や医療費の更なる適正化を図ることを目指します。



計画の構成

- | | |
|---------------------|----------------|
| 第1章 計画の基本方針 | 第5章 健康課題と目的・目標 |
| 第2章 三郷市の現状と考察 | 第6章 計画の推進 |
| 第3章 特定健康診査等の実施状況と計画 | 第7章 個人情報の保護 |
| 第4章 保健事業の現状と考察 | |



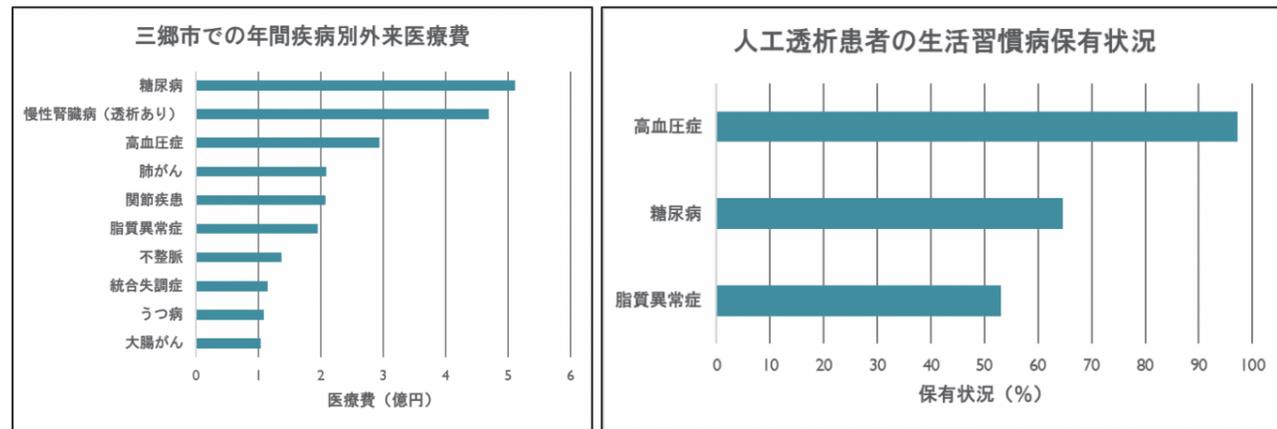
三郷市国民健康保険加入者の現状

三郷市国民健康保険の被保険者は人口の約 20% (27,986 人 令和 5 年 4 月 1 日現在) です。今後急速な高齢化により、医療費の更なる増大が予測されます。

医療費分析からみえた“生活習慣病予防”の必要性

年間疾病別外来医療費は**糖尿病**、**慢性腎不全（透析あり）**、**高血圧症**など生活習慣病を原因とするもの（慢性腎不全は生活習慣病以外の原因からも発症）が上位を占めています。

糖尿病は40歳代から高血圧症は60歳代から治療費の増加が目立つようになります。また、人工透析患者の6割以上が糖尿病及び高血圧症の治療を受けています。



データ：国保データシステム 令和3年度累計

データ：国保データベースシステム 令和5年5月現在

特定健康診査結果の分析からみえた“特定健康診査・特定保健指導”の重要性

特定健康診査及び特定保健指導の受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は大幅に減少し、その後回復傾向にありますが、以前の水準には戻っていません。今後はさらなる受診率向上のための取組みが必要となります。特に男女ともに40歳代、50歳代の受診率が低く、糖尿病及び高血圧症の医療費は、それぞれ25歳と40歳代から増加が見られ、年齢とともに増加傾向にあることから、若年層からの対策が必要であると考えられます。

●特定健康診査受診率

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
三郷市	35.1%	34.1%	33.3%	19.8%	27.5%	31.4%
県内市町村平均	39.6%	40.3%	40.7%	34.9%	38.2%	39.4%

●特定保健指導終了者割合

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
三郷市	12.3%	13.5%	14.1%	12.1%	8.9%	5.7%
県内市町村平均	17.6%	20.0%	19.8%	20.2%	19.4%	18.9%

データ：令和4年度 法定報告

課題と対策

医療費分析、特定健康診査および特定保健指導などの現状から見えてきた健康課題とその課題を解決するための対策についてまとめました。

課題

年間疾病別外来医療費は、上位3つが全て生活習慣病(1位 糖尿病、2位 慢性腎不全、3位 高血圧症)であり、また2位の慢性腎不全(透析あり)の罹患者も、糖尿病と高血圧の保有率が高くなっている。

疾病別医療費上位10位以内に、ロコモティブシンドローム関連疾患が該当する。(入院は骨折・関節疾患、外来は関節疾患が該当)

健診の結果、【HbA1c】の有所見者(正常値を超えている人)の割合は、男女ともに高い。

特定健診受診率は男女とも40歳代、50歳代の受診率が低い。また、特定保健指導の実施率が低い。

健診を受診した男性のうち約3割が、メタボリックシンドローム基準該当群または予備群である。

がんの部位別死亡率では、男性は「胃がん」「肺がん」「大腸がん」、女性は「肺がん」「乳がん」「胃がん」「大腸がん」の割合が高い。

対策

【重点】糖尿病対策(下図①)

- ・若年層を対象とした予防策の実施
- ・未治療者への訪問を通じた受診勧奨の実施
- ・重症化リスクの高いかたへの医療機関への受診勧奨や保健指導

【重点】特定健康診査受診率・特定保健指導終了者割合の向上対策(下図②)

40歳～50歳代の継続受診や保健指導利用へのはたらきかけの強化

自己啓発の促進(下図③)

- ・健康情報の発信・各種保健事業の周知
- ・ロコモティブシンドローム予防のはたらきかけの強化

がん対策

- ・早期発見・早期治療に向けた検診受診率と精密検査受診率向上へのはたらきかけの強化

【特定健康診査受診後の保健事業体系図】

